

## 平成18年度 認証評価を実施しました

### 16大学すべてを「認定」と判定

日本高等教育評価機構は、平成18年度 大学機関別認証評価を実施し、申請のあった16大学すべてについて認定とする評価結果を発表しました。試行評価を含めて3回目となる今回は、初めて認定条件と改善点の指摘がありました。

平成18年度 大学機関別認証評価は、17年9月末に申請を受理した大学に対して実施しました。今回は16大学(表1)から申請があり、18年8月から12月にかけて評価チーム(当機構が委嘱した評価員4~6人で編成)が書面調査と実地調査を行いました。

当機構の大学評価判定委員会が評価チームの調査報告を受けて審議し、19年3月、全大学について「当機構が定める大学評価基準を満たしている」と判定しました。認定期間は18年4月1日から25年3月31日の7年間です。

認定に条件を付したのは岐阜経済大学で、定員超過の18年度新設学科について、完成年度の充足状況を報

告することを求めました。

また、京都嵯峨芸術大学には改善点を指摘し、教授会の運営体制について、法律上の問題ではないが、区分・整理が必要であるとしてきました。

各大学の評価結果報告書は、スケジュール、担当評価員名簿などとともに「平成18年度 大学機関別認証評価 評価結果報告書」としてまとめ、関係機関へ配布しました。全ページを当機構のホームページ(<http://www.jiheer.or.jp>)で公表しています。

(表1)平成18年度 大学機関別認証評価 受審大学  
(50音順、すべて私立大学)



16大学の評価結果について、平成19年3月29日に記者発表を行いました。

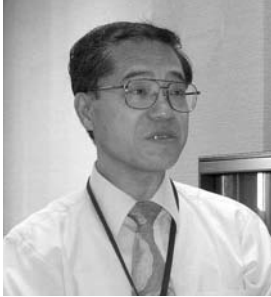
大学名	所在地	大学名	所在地
桜美林大学	東京都	新潟医療福祉大学	新潟県
大阪電気通信大学	大阪府	日本女子体育大学	東京都
鹿児島国際大学	鹿児島県	八戸工業大学	青森県
岐阜経済大学	岐阜県	広島文教女子大学	広島県
京都嵯峨芸術大学	京都府	福岡歯科大学	福岡県
埼玉医科大学	埼玉県	別府大学	大分県
産業能率大学	神奈川県	武蔵野大学	東京都
帝京科学大学	山梨県	明海大学	埼玉県

### CONTENTS

平成18年度 認証評価を実施しました.....1	解説 評価システム改訂のポイント.....5
インタビュー 認証評価を受審して/評価して.....2	平成19年度事業計画.....6
メッセージ 判定を終えて.....3	認証評価申請(予定)状況.....6
緊急アンケート 自己評価担当者の本音.....3	From jiheer.....7
アンケート集計結果	レポート 文書の溶解に立ち合いました.....7
審査16大学、担当評価員80人に聞きました.....4	役員名簿&会員大学一覧.....8
インタビュー 認証評価 高校はどう見えていますか?.....5	

認証評価は1年半の長い道のり。受審する側も評価する側も、大変な仕事に違いありません。自己評価担当者と担当評価員に、認証評価を終えての率直な気持ちをお話いただきました。

\*評価員の守秘義務の規程上、白澤評価員の担当大学名は掲載できませんのでご了承ください。



自己評価担当者

奥森 利一氏

武蔵野大学 学事部参事  
(受審時は学事部長)

### 自己評価報告書の調整に 延べ5日、徹夜をしました

— 自己評価担当者(以下、LO=Liaison Officer)に任命されたのはいつですか。そのときのお気持ちは。

奥森 平成17年2月です。所管業務の関係で予想はしていたので驚きはしなかったのですが、責任の重さを感じましたね。

— LOの大切な使命である「学内への周知」は、うまくいききましたか。

奥森 学長を中心に学内の諸会議で周知を図りました。本学は5か年計画でのブランド展開を進めているところだったので、協力体制が整うのは早かったですね。

— 自己評価報告書の作成体制は。

奥森 自己点検評価委員会の下に自己評価報告書作成委員会を設置し、教員の委員長を中心に月1回、締め切り前は毎週集まって進行状況を確認し合い、意見交換をして作成していきました。

— 作成時に大変だったことは何でしょうか。

奥森 報告書編集のため、文書の削減、修正、追加を繰り返したので、目を通した文書の総ページは1200ページぐらいになりました。最終的には100ページに収めましたが、延べで5日、徹夜しましたよ(笑)。

— 実地調査中の学内の体制は。

奥森 質問や面談要請にすぐ対応できるよう、関係者60人に学内に待機していただきました。また、ありのままの姿を見ていただきたかったので学生への広報は特にしていません。

— 認証評価を終えて、今のお気持ちは。

奥森 多くの関係者のご尽力で終了できました。ただし、認証評価は受けて終わりではありません。自己点検評価の結果を今後の改善にどのように生かすかが大事だと思います。

— これから受審する大学のLOへのアドバイスをお願いします。

奥森 認証評価は全学の協力体制を築くことと、自己評価報告書の作成責任者を基準ごとに明確にすることが大切です。また、自己評価報告書に必要な資料、データなどは早めに集めておくとよいと思います。

担当評価員

白澤 宏規氏

東京造形大学 学長



### 実地調査で気づいた点は その日のうちにまとめておきました

— 評価員を経験して、率直なご感想は。

白澤 評価員も評価されているのだと感じました。特に大学へ質問をするときは、しっかり自己評価報告書を読み込んでいるか、大学のことを理解しているのかが試されます。真剣勝負ですね。

— お忙しい中、自己評価報告書を読み、分析するのは大変だったと思いますが、コツは。

白澤 私は、記述に具体性があるか、論理的であるかに注意して読みました。事実の説明から改善方策までが、論理的整合性をもって展開されているかということです。また、大学案内や学生便覧をまず読んで、大学全体の特色をつかんでから自己評価報告書を読み始めました。

— 実地調査で苦勞した点、また印象深かったことは。

白澤 対象校に誠意を持ってご対応いただき、評価チームのチームワークもよかったので、苦勞は感じませんでした。一つ印象的なことをあげれば、学生への面談です。学生の反応や意見はとても正直ですね。

— 実地調査では、資料やデータの点検にもかなりの時間をかけられたそうですね。

白澤 現地でしか見られない資料、特に議事録を読むことで、大学の実態がよくわかった気がします。

— 調査報告書の執筆にはどれくらいかかりましたか。

白澤 実は、私が執筆にかけた時間はそれほど長くありません。実地調査中はメモをとり、その日のうちにホテルの部屋でわかったことや指摘したいことを書き出しておいたのがよかったのでしょ。

— これから評価員をされる方へのアドバイスをお願いします。

白澤 評価はチームで行いますので、評価員にはある程度の許容力が必要です。異文化体験のつもりで、考え方の振れ幅を大きくして受審大学を見てください。

また、書面調査が仕事の大半を占めるのですが、実際に見ないとわからないことも確かにあります。実地調査には先入観を持たずに臨んでください。難しいことですが(笑)。



大学評価判定委員会委員長

高倉 翔

(財)日本高等教育評価機構 副理事長  
明海大学 学長

評価される側・する側とも「エビデンス」にご注意を

平成17年度は4大学の判定を行いました。うち2大学は試行評価の受審校で、お互いに「評価慣れ」の感もありました。その意味では、18年度は実質的な初年度ともいえ、大学評価判定委員会も緊張していました。

今回は、16大学すべてを認定とし、1校には条件をつけ、1校には改善点の指摘をさせていただきました(p.1参照)。大学の「質の保証」のために設置された認証評価機関としまして、これが大学の「改善・改革」を推進する契機とな

り、早い時期に成果が得られるものと期待します。

自己評価報告書は、まだ、「こうありたい」「こうしたい」という願望にとどまる記述がありました。これから受審する大学には、「エビデンス」(根拠)をベースとした、具体的な方策を記述していただきたいと思います。認証評価を受ける目的は認定をとることではなく、自らの大学の改善・改革に資することであるとご理解ください。

一方、評価チームから提出された調査結果報告書は、前年度に比べて「エビデンス」をベースとした書き方が増えていました。受審大学の実態を正確に示していただきたいと思います。

19年度は、改善を加えた評価システムで臨みます。絶えず緊張感を持ち続けて評価を行い、評価するもの・されるもの双方の成長に貢献したいと思います。(談)

緊急アンケート

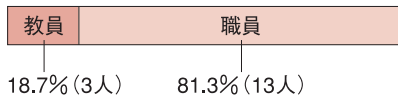
Liaison Officer  
自己評価担当者の本音

担当して“得たもの”は「学内の信頼」、 “失ったもの”は「自分の時間」

認証評価において重要な役割を担う「自己評価担当者」(以下、LO)について、実際に経験された平成18年度のご担当者に色々伺いました。

【アンケート実施時期:平成19年6月、方法:E-mail、回収率:81.3%(13/16人)】

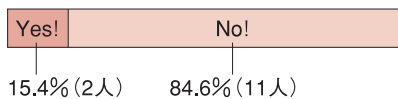
18年度LO16人の教員・職員別



LOに決定した時の心境は? (複数回答)

- ① 通常業務が心配……………7人 53.8%
- ② 予想していたので驚かなかった・6人 46.2%
- ③ ちょっと負担……………6人 46.2%
- ④ やる気がわいた……………4人 30.8%
- ⑤ ほかに適任者がいるのでは? ……4人 30.8%
- ⑥ 予想していなかったので驚いた・3人 23.1%

大学や上司は通常業務の負担軽減など配慮してくれたと感じましたか?



特に大変だったことは? (複数回答)

- ① 教員への周知徹底やとりまとめ・9人 69.2%
- ② 資料・データの収集など……………8人 61.5%
- ③ 実地調査時……………7人 53.8%
- ④ 組織立ち上げ・準備開始時……………5人 38.5%
- ⑤ 職員への周知徹底やとりまとめ・5人 38.5%
- ⑥ 評価員からの質問への回答……………5人 38.5%

実地調査中に気がついたことは?

- ◆ 評価員の質問や要請への速やかな対応。
- ◆ スケジュールの進行管理と時間配分。

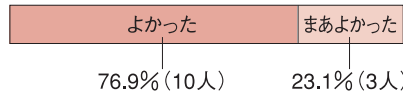
実地調査の基礎データ

「大学関係者との顔合せ」出席者:平均19人  
「大学関係者との面談」出席者:平均7.8人  
LOの平均退校時間:20時24分

LOを担当して得たもの・失ったものは?

得たもの:	失ったもの:
学内の信頼、自信、スタッフの結束・一体感、情報と知識、組織や規程の整備	自分の時間、家族サービスの時間、夏期休暇、睡眠時間

LOを担当してみようでしたか?



- ◆ 大学本来の使命について、再認識できた。
- ◆ 全学にかかるプロジェクトの中心で働くことができた。
- ◆ 教職員が非常に協力的で、スムーズに進行した。研究よりストレスが少なかった。

エピソードなどがあれば教えてください

- ◆ 実地調査で面談する学生が直前に体調を崩し、実家に帰ってしまったときは焦った。
- ◆ 学内視察ルートを実際に歩いたらあまりにも大変で、急ぎよ休憩を追加した。
- ◆ 実地調査終了後、関係者に協力のお礼をメールしたところ、翌日メッセージ欄にたくさんの方からねぎらいの言葉が届いていて感

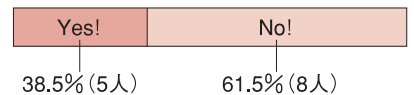
動した。

- ◆ 評価終了後、自前の慰労会で盛り上がった。ボーナスの査定はなかった。
- ◆ 3月に評価結果が伝えられ、上司からねぎらいの言葉があった時には感動した。
- ◆ 学食ダントツ1位だったメニューの質がすっかり落ちていたのを知らずに評価員に出してしまった。その反省(?)でカフェを3つ新設して成功したのは、けがの功名?
- ◆ 実地調査時、秋だったのに30度を超える猛暑で汗だく。メークの修復が間に合わず、朝と夕方では顔が違ってははず。

今後担当するLOへアドバイスを一言!

- ◆ 正直に、素直に書き、話すこと。
- ◆ 早めの準備が大切。
- ◆ 機構事務局との入念な打合せが大切。
- ◆ 改革のために必ずやりきるぞという強い気持ちと大学を愛する気持ちが大切!

ズバリ! 機会があればまたLOを担当したいと思いますか?



- ◆ Yes! でも担当したくてもさせてもらえないでしょう……。
- ◆ No! ほかの者にもぜひ経験させたいから。

「自己評価担当者の本音」いかがでしたでしょうか。このほかにもご紹介したい回答がたくさんありました。関係各位のご協力に心より感謝いたします。



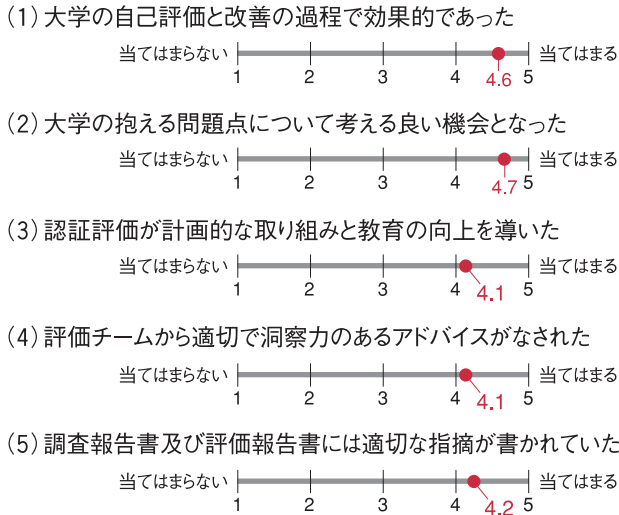
# アンケート集計結果

## 受審16大学、担当評価員80人に聞きました

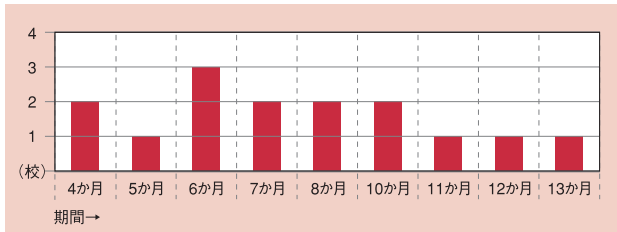
平成20年度以降の認証評価の改善に資するため、18年度認証評価の受審大学と担当評価員を対象にアンケートを行いました。特徴的なものを抜粋してご紹介します。  
回収率:受審大学 93.7% (15/16校) 担当評価員81.3% (65/80人)

### ●受審大学

#### ■認証評価の効果・感想(平均値)

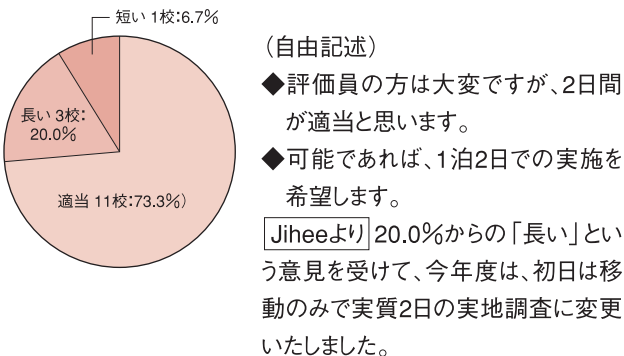


#### ■自己評価報告書の作成期間



**Jiheeより** 自己評価報告書の作成に関する質問は、随時受け付けております。

#### ■実地調査の期間(平成18年度は一部を除いて2泊3日で実施)



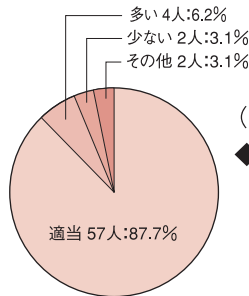
#### ■「大学評価基準」についての意見

- ◆基準項目としては、10項目程度が適切と考えます。例えば、「基準11・社会的責務」については、その質問内容等から考え、「基準7・管理運営」と統合が可能ではないかと考えます。
- ◆教員の活動そのものを点検・評価する項目が無く、研究についても点検・評価することが必要ではないかと思ひます。

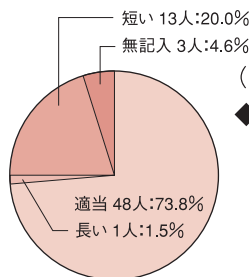
### ●担当評価員

#### ■自己評価報告書及び

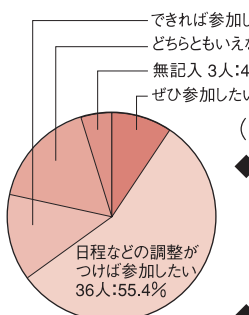
##### 当機構が指定する資料・データ等の量



#### ■基準ごとの大学関係者との面談時間



#### ■平成19年度認証評価に参加したいか



- ◆できれば参加したくありません。したくないという表現は不適切ですが、勤務校が小規模であるため、学内外の用務に追われ、十分な時間をとることができません。
- ◆評価を行うためには、高等教育についてさらに勉強しなくてはならないのでどちらともいえません。

#### ■「大学評価基準」についての意見

- ◆自己点検・評価等の活動は、すべての基準に関わるので、基準7に限定しないほうが良いと思ひます。
- ◆今後、評価事例の蓄積により、重複記載となる事実と基準との関係について一覧表を作成するなど、評価員の作業を効率化する工夫を期待します。
- ◆大学の任務を健全に果たすのに必要な項目をすべて掲げ評価されているので、現行の基準でよいと思ひます。

## Interview

### 認証評価 高校はどう見えていますか？

千葉吉裕氏

東京都立晴海総合高校教諭  
進路指導専任のキャリアカウンセラー  
全国高等学校進路指導協議会では  
事務局長を務める



### 生徒の将来がかかっているので 大学の評価には厳正さを求めます

認証評価制度が始まって3年が過ぎましたが、高校の関心はまだ高いとは言えないようです。しかし、「認証評価がもたらす情報は、今後の進路指導に不可欠になるでしょう」と現場の教員は話します。高校でキャリアカウンセラーとして進路指導に携わり、認証評価に詳しい千葉吉裕氏に話を伺いました。

— 高校の先生方の認証評価への関心はいかがですか。

千葉 正直、関心のある先生は少ないですね。認証評価の意味を知らない先生もまだまだ多いように感じています。

— その中で、先生は早くから認証評価に注目されています。なぜでしょうか。

千葉 認証評価が、安心した大学選びの基盤になると考えるからです。大学が発信する情報は増えていますが、教員がそれらをすべて見ることは不可能です。特に経営状況は見てわかるものではないので、認証評価がもたらす情報はとても貴重です。

— 認証評価機関が認めた大学なら、安心して生徒に薦められるということですか？

千葉 その通りです。知名度のある、大きい大学がすべての生徒にいいとは限りません。面倒見のよい大学、安心して卒業できる大学を判断するための情報の一つだと思います。

— 認証評価結果のどこに注目されますか？

千葉 日本高等教育評価機構の基準でいえば、大学が積極的に広報していない基準6以降です。特に財務は、

大学が公開している財務諸表より、認証評価の結果を見るほうがわかりやすいですね。

— 認証評価機関へのご意見は？

千葉 大学選びには生徒の将来がかかっていますので、厳正で確実な評価をしてほしいですね。大学同士で評価しあうので、甘えが出たり、問題点に目をつぶったりするのではないかと心配です。その結果、今年認定された大学が、数年後に募集停止になったら、どうでしょう？ 高校側は認定した機関を疑うことになります。

特に日本高等教育評価機構は、ほかの評価機関より後発で、入会に審査がないので、信頼を得る努力が必要だと思います。

— 認証評価を高校や社会に根付かせるために私たちは何をすべきだと思いますか？

千葉 高校教員や高校生にPRすべきです。進路情報は予備校などの受験産業のものが中心で、ここに評価機関が加わることは意味があると思います。AO入試と同じで、高校生の1割以上が認知すれば、爆発的に広がる可能性は高いでしょう。

## 解説 評価システム改訂のポイント

当機構では、大学機関別認証評価の「評価システム」を改訂し、平成19年1月に文部科学大臣に届け出ました。ここでは、その主な内容を紹介します。

なお、改訂したシステムは19年度評価から適用します。

### ■主な改訂内容

①自己評価報告書の重複を避けるため、記述方法を一部変更しました。

→事実の説明（現状）は、「評価の視点」ごとではなく、「基準項目」ごとに記述できます。

②「特記事項」の取り扱いを変更しました。

→大学の特色や独自の取り組みなどを基準に関係なく自由に記述できます。

記述の内容が基準に関係する場合は評価の対象となります。

③大学評価基準の「基準項目」「評価の視点」を一部変更しました。

→重複する基準の「基準項目」「評価の視点」を整理・統合しました（基準2 教育研究組織を中心に）。

④学校教育法等の改正を踏まえた内容に変更しました。

### 「評価システム」の概要

評価システムとは、大学機関別認証評価実施大綱と大学評価基準を指します。

【大学機関別認証評価実施大綱】

評価の基本的な内容を示したものです。

【大学評価基準】

大学評価の基準で、建学の精神、使命・目的などに基づいて自発的かつ積極的に取り組めるよう基本原則を掲げたものです。11の基準と「特記事項」からなります。

## 平成19年度事業計画

### 1. 私立大学等の教育研究活動等に関する評価事業

認証評価機関として各大学の申請を受理し、教育研究活動等について評価を実施するという当機構にとって中心となる事業です。

認証評価は、平成19年度(18年9月申請受け付け)38大学、20年度(19年9月申請受け付け)についてそれぞれ並行して実施します。

また、各大学の評価関係者の意識を高め、取り組みの強化を図るために、当機構の評価システムを説明する大学評価セミナー(19年6月東京・大阪にて実施済)、20年度評価実施大学に対する自己評価担当者説明会(20年1月)の開催を計画しています。

### 2. 評価員の養成事業

認証評価の期限(平成22年度)が近づき、19年度以降評価申請大学の急増が予想され、評価員の大幅な増員が早急に必要です。17年度に委嘱した評価員は約470人でしたが、18年度において、会員大学などからの推薦を中心に約300人の候補者を確保し、「評価員(候補者)セミナー」を受講した候補者に対し評価員の委嘱を行いました。これにより当機構の評価員は約800人体制となりました。

19年度は、評価の担当大学が決定した評価員(181人)に対し、評価システム等の共通理解及び徹底を図る「担当評価員セミナー」を東京・大阪・福岡にて開催します(19年7月実施済)。

### 3. 認証評価に関する調査研究事業

評価基準・評価マニュアル等に対する調査研究・見直し・改訂等を恒常的に行い、さらには大学評価に関する国際情勢にも対応していくための事業です。

- (1) 評価システムの改善検討
- (2) 評価員セミナーのアンケート調査の結果を分析し、評価員に対する望ましい研修の在り方及び評価員の養成に関する調査・研究
- (3) 当機構に対する要望が強い短期大学の認証評価実施のための評価基準等設定の検討、さらに専門職大学院(ファッション)評価基準設定の検討
- (4) 会員協議会(評価充実セミナー)開催、国際会議等への参加

### 4. 私立大学等の教育研究活動の評価に対する支援事業

認証評価の意義、手続き及び評価結果に対する取り組みについて、大学から要請があれば、指導のための要員を派遣する等の相談業務を実施します(平成18年度は10大学で実施)。

### 5. 認証評価に関する広報・啓発活動

認証評価機関としての活動状況及び評価結果等を公表するとともに、認証評価の意義、内容、手続き方法を大学関係者、一般国民に広く理解してもらうための事業です。

機関誌の刊行、ホームページの維持管理、公開講演会の開催を計画・実施します。

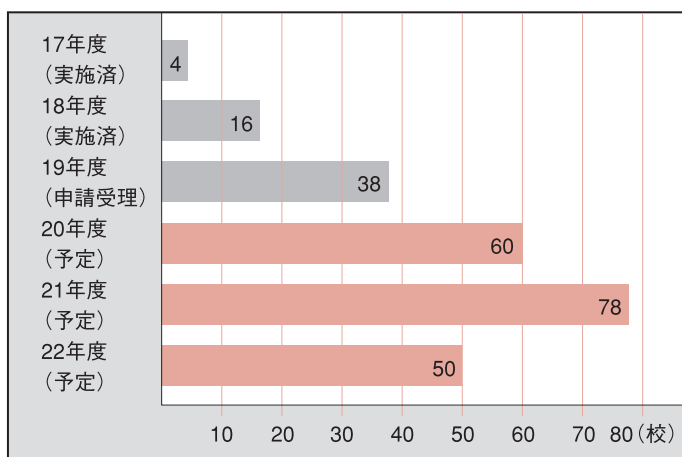
## 認証評価申請(予定)状況

### 平成20年度からの3年間に集中

平成20年度以降に当機構が実施する認証評価の申請大学数が急増することが予測されます。認証評価を実施するに当たって体制を整備するため、より正確な申請大学数を把握する必要があり、本年6月に「大学機関別認証評価に関する予備調査」を実施しました。ご協力ありがとうございました。調査の結果は右表のとおりです。

20年度認証評価申請大学数は60大学、21年度78大学、22年度50大学(いずれも予定)と認証評価の期限(22年度)までの3年間に集中しています。

年度別申請校数





## ■お知らせ

## ◆文科省委託事業の報告書を刊行

文部科学省委託事業として①評価システムの見直し及び改善②評価員に対する望ましい研修の在り方及び評価の手法等の実践的研究③海外におけるファッション系高等教育機関に係る評価機関等に関する調査研究を行い、報告書を刊行しました(ホームページに全文を掲載中)。

## ◆実地調査スケジュールの変更について

平成19年度より、実地調査の基本的スケジュールを変更しました(原則2泊3日には変更ありません)。

★変更前:大学での実地調査は1日目昼～3日目昼まで

★変更後:1日目は移動日とし、大学での調査は2日目朝～3日目夕刻まで

## ◆受審大学への事前相談について

平成19年度から、当該年度の受審大学に対し、事前相談を実施しています。これは、自己評価報告書の作成や実地調査の準備に関わる事項について事前に相談を受けるものです。当機構への来訪、電話のほか、依頼により職員の派遣も行っています。

## ■平成18年度活動報告

## ◆18年8月～19年3月

18年度認証評価の実施(16大学)

## ◆18年6月16日・19日(東京・大阪)

「大学評価セミナー」を開催

## ◆18年6月30日(東京)

「第1回会員協議会(評価充実セミナー)」

を開催

## ◆18年7月6日・11日(東京・大阪)

「担当評価員セミナー」を開催

## ◆19年1月18日(東京)

「自己評価担当者説明会」を開催

## ◆19年2月～3月(全国5会場)

「評価員セミナー」を開催

## ◆19年2月27日～3月10日

海外ファッション系大学院評価調査団を派遣

## ■平成19年度認証評価スケジュール

(大学側)

19年1月 自己評価担当者説明会(実施済)

7月末まで

自己評価報告書、データ、資料提出

8月～ 書面調査(質問への回答含む)

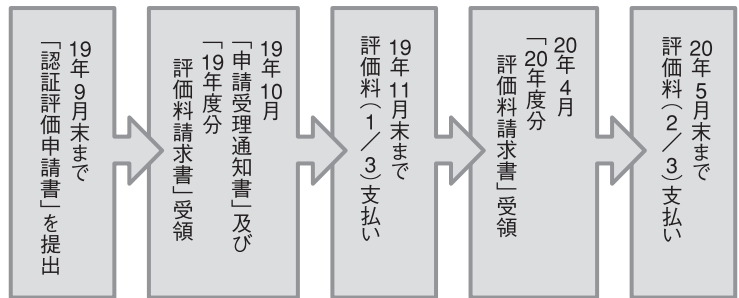
9月末～11月末 実地調査(2泊3日)

20年1月 調査報告書案への意見申し立て

2月頃 評価報告書案への意見申し立て

3月末 評価結果を受領

## ■平成20年度の認証評価申請の手順



※評価のスケジュールは19年度と同様の予定です。

## REPORT 文書の溶解に立ち合いました

## ダンボール100箱分が繊維に

平成19年4月20日(金)、自己評価報告書などの文書の溶解に立ち合ってきました。当機構では、大学に提出していただいた文書等は機密文書として厳重に取り扱い、認証評価終了後は保管分を除いて確実に廃棄するため、専門の企業に依頼し、当機構の職員立ち合いのもと溶解処理することになっています。

今回溶解したのは、平成18年度認証評価を受けた16大学の自己評価報告書やデータ、規程集などダンボール約100箱分です。冊子だけでなく、クリップや電子媒体など紙以外のものも入っているのですが、ダンボールのまま左右のベルトコンベヤーから中央のパルパー(溶解釜)へ運ばれます(写真1)。開封されないで、情報の流出を確実に防ぐことができると感じました。パルパーへ運ばれたダンボールは、水でかき混ぜ細かい繊維にした後(写真2)、様々な工程を経てトレットロールにリサイクルされます。



〈写真1〉

ダンボールのまま左右のベルトコンベヤーから中央のパルパーへ運ばれます。



〈写真2〉

パルパー内部。ここで水をかけ、細かい繊維にします。

# 役員名簿&会員大学一覽

(平成19年6月現在)

## 役員名簿

### ●理事(18人)

理事長  
佐藤登志郎 (北里大学名誉教授・学校法人北里学園顧問)  
副理事長  
高倉 翔 (明海大学学長)  
専務理事  
原野 幸康 (日本私立大学協会参与)  
理事  
石田 恒夫 (広島経済大学理事長・学長)  
大沼 淳 (文化女子大学理事長・学長・日本私立大学協会会長)  
北島 義俊 (大日本印刷株式会社代表取締役社長)  
黒田 壽二 (金沢工業大学学長・総長)  
小出 忠孝 (愛知学院大学学長・学長)  
後藤 淳 (愛知工業大学理事長・総長)  
佐藤東洋士 (桜美林大学理事長・学長)  
高柳 元明 (東北薬科大学理事長・学長)  
中村 量一 (中村学園大学理事長)  
西村 駿一 (別府大学理事長)  
野崎 弘 (前独立行政法人国立博物館理事長)  
野田起一郎 (近畿大学名誉学長)  
廣川 利男 (東京電機大学学長)

森田 嘉一 (京都外国語大学理事長・総長)  
森本 正夫 (北海学園大学理事長・北海商科大学学長)  
●監事(3人)  
齋藤 力夫 (永和監査法人代表社員)  
塚本 邦彦 (大阪芸術大学理事長・学長・学院長)  
中原 爽 (参議院議員・日本歯科大学理事長)  
●評議員(33人)  
井尻 昭夫 (岡山商科大学理事長・学長)  
大西 良三 (中部大学理事長・学園長)  
大橋 秀雄 (工学院大学理事長)  
冲永 莊一 (帝京平成大学理事長)  
加賀谷淳子 (日本女子体育大学客員教授)  
香川 達雄 (女子栄養大学理事長)  
北古賀勝幸 (熊本学園大学理事長)  
小出 秀文 (日本私立大学協会事務局長)  
小林 素文 (愛知淑徳大学理事長・学長)  
佐野 博敏 (大妻女子大学理事長・学長)  
野田 輝子 (文京学院大学理事長・学長)  
末岡 照章 (名古屋経済大学理事長・学長)  
杉本 拓 (北星学園大学理事長)  
高井 伸夫 (高井伸夫法律事務所所長弁護士)

瀧澤 博三 (日本私立大学協会附属私学高等教育研究所主幹)  
田中 郁三 (東京工業大学名誉教授)  
谷岡 一郎 (大阪商業大学理事長・学長)  
東松 孝臣 (大阪工大摂南大学総長)  
戸田 安士 (金城学院大学理事長・学院長)  
永田 治雄 (鹿児島国際大学理事長)  
西岡 信雄 (大阪音楽大学理事長)  
野原 明 (文化女子大学教授・同附属杉並中学校高等学校校長)  
原田 嘉中 (千葉商科大学理事長・学園長)  
平尾 和義 (前酪農学園大学理事長)  
福井 直敬 (武蔵野音楽大学理事長・学長)  
福原 隆善 (佛教学学学長)  
朴澤 泰治 (仙台大学理事長)  
細山田明義 (昭和大学学長)  
村崎 正人 (徳島文理大学理事長・学園長)  
柳谷 透 (八戸工業大学理事長)  
山本 襄治 (聖イグナチオ教会助任)  
吉田 泰輔 (前国立音楽大学理事長)  
六鹿 正治 (株式会社 日本設計代表取締役社長)

## 会員大学

北海道 旭川大学 札幌国際大学 千歳科学技術大学 道都大学 函館大学 北星学園大学 北海学園大学 北海商科大学 北海道医療大学 北海道工業大学 北海道薬科大学 酪農学園大学 青森県 東北女子大学 八戸工業大学 岩手県 富士大学 盛岡大学 宮城県 尚絅学院大学 仙台大学 東北工業大学 東北生活文化大学 東北文化学園大学 東北薬科大学 山形県 東北芸術工科大学 福島県 いわき明星大学 郡山女子大学 東日本国際大学 福島学院大学 茨城県 筑波学院大学 栃木県 足利工業大学 国際医療福祉大学 作新学院大学 群馬県 共愛学園前橋国際大学 群馬社会福祉大学 高崎商科大学 東京福祉大学 埼玉県 浦和大学	共栄大学 埼玉医科大学 埼玉学園大学 十文字学園女子大学 女子栄養大学 駿河台大学 西武文理大学 東京国際大学 東邦音楽大学 日本工業大学 人間総合科学大学 平成国際大学 武蔵野学院大学 明海大学 千葉県 愛国学院大学 江戸川大学 川村学園女子大学 神田外語大学 聖徳大学 千葉科学大学 千葉経済大学 千葉工業大学 千葉商科大学 帝京平成大学 東京成徳大学 日本橋学園大学 麗澤大学 和洋女子大学 東京都 上野学園大学 桜美林大学 大妻女子大学 嘉悦大学 北里大学 共立薬科大学 国立音楽大学 国土館大学 昭和大学 昭栄薬科大学 杉野服飾大学 聖母大学 高千穂大学 多摩大学 帝京大学 東京音楽大学	東京家政学院大学 東京工科大学 東京工芸大学 東京純心女子大学 東京女学館大学 東京女子体育大学 東京聖栄大学 東京造形大学 東京電機大学 東京富士大学 東京理科大学 桐朋学園大学 日本医科大学 日本歯科大学 日本獣医生命科学大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文化女子大学 星薬科大学 武蔵野大学 武蔵野音楽大学 目白大学 神奈川県 神奈川工科大学 鎌倉女子大学 産業能率大学 松蔭大学 昭和音楽大学 女子美術大学 洗足学園音楽大学 田園調布学園大学 横浜商科大学 新潟県 新潟医療福祉大学 新潟経営大学 新潟国際情報大学 新潟青陵大学 富山県 高岡法科大学 桐朋学園大学院大学 富山国際大学 石川県 金沢学院大学 金沢工業大学 金沢星稜大学 金城大学	北陸大学 福井県 仁愛大学 福井工業大学 山梨県 帝京科学大学 山梨学院大学 長野県 長野大学 岐阜歯科大学 中京学院大学 東海学院大学 静岡県 静岡英和学院大学 静岡産業大学 静岡福祉大学 静岡理工科大学 愛知県 愛知学院大学 愛知学泉大学 愛知工科大学 愛知産業大学 愛知淑徳大学 愛知みずほ大学 桜花学園大学 金城学院大学 椋山学園大学 星城大学 大同工業大学 中京女子大学 中部大学 東海学園大学 同朋大学 愛知東邦大学 豊橋創造大学 名古屋音楽大学 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学 名古屋経済大学 名古屋芸術大学 名古屋産業大学	名古屋商科大学 名古屋女子大学 名古屋造形芸術大学 名古屋文理大学 日本福祉大学 人間環境大学 名城大学 三重県 鈴鹿医療科学大学 鈴鹿国際大学 滋賀県 成安造形大学 聖泉大学 びわこ成蹊スポーツ大学 京都府 京都外国語大学 京都嵯峨芸術大学 京都情報大学院大学 種智院大学 花園大学 佛教大学 平安女学院大学 明治鍼灸大学 大阪府 追手門学院大学 大阪大谷大学 大阪音楽大学 大阪観光大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪芸術大学 大阪工業大学 大阪歯科大学 大阪樟蔭女子大学 大阪商業大学 大阪成蹊大学 大阪体育大学 大阪電気通信大学 大阪人間科学大学 関西外国語大学 関西医療大学 関西福祉科学大学 四條畷学園大学 四天王寺国際仏教大学 摂南大学 千里金蘭大学	帝塚山学院大学 常盤会学園大学 羽衣国際大学 ブール学院大学 兵庫県 芦屋大学 大手前大学 関西国際大学 関西福祉大学 近畿福祉大学 甲子園大学 甲南女子大学 神戸学院大学 神戸芸術工科大学 神戸国際大学 神戸山手大学 宝塚造形芸術大学 兵庫大学 奈良県 奈良大学 奈良産業大学 鳥取県 鳥取環境大学 岡山県 岡山学院大学 岡山商科大学 岡山理科大学 倉敷芸術科学大学 くらしき作陽大学 山陽学園大学 中国学園大学 美作大学 広島県 呉大学 比治山大学 広島経済大学 広島工業大学 広島国際大学 広島国際学院大学 広島文教女子大学 山口県 徳山大学 梅光学院大学 徳島県 四国大学 徳島文理大学	香川県 四国学院大学 高松大学 福岡県 九州栄養福祉大学 九州国際大学 九州情報大学 久留米工業大学 西南女学院大学 聖マリア学院大学 福岡経済大学 第一福祉大学 第一薬科大学 筑紫学園大学 中村学園大学 福岡工業大学 福岡歯科大学 長崎県 長崎ウエスレヤン大学 長崎国際大学 熊本県 九州看護福祉大学 熊本学園大学 熊本保健科学大学 尚絅大学 崇城大学 平成音楽大学 大分県 日本文理大学 別府大学 宮崎県 南九州大学 宮崎国際大学 宮崎産業経営大学 鹿児島県 鹿児島国際大学 鹿児島純心女子大学 志学館大学 第一工業大学 沖縄県 沖縄キリスト教学院大学 名桜大学
---	--	---	--	--	--	--

PeeR (ピア) 第2号

◆平成19年7月20日発行  
◆編集人 原野 幸康  
◆発行 財団法人 日本高等教育評価機構  
◆所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-11 第二星光ビル2階  
TEL.03-5211-5131 FAX.03-5211-5132 URL <http://www.jiheer.or.jp>

★「PeeR (ピア)」に関するご意見・  
ご感想はこちらへお寄せください  
hyoukaku@jihее.or.jp  
(件名を「ピア」としてください)



左右に配置された流線はく地球>>と、両手で作るく輪>>をイメージしています。大学と社会を結ぶ機構でありたいとの想いを込めました。